(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-156961

(43)公開日 平成8年(1996)6月18日

(51) Int.CL: 識別記号 庁内整理番号 FI 技術表示箇所 B65D 51/18 E 55/02

審査請求 有 請求項の数4 FD (全4 頁)

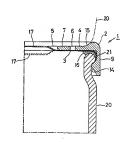
(21)出願番号	特願平6-329211	(71) 出願人 000222222
		東洋ガラス株式会社
(22)出嫡日	平成6年(1994)12月5日	東京都千代田区内幸町1丁目3番1号
		(72)発明者 上田 良三
		東京都葛飾区新小岩2丁目15番5号
		(74)代理人 弁理士 神戸 清 (外1名)

(54) 【発明の名称】 広口容器の蓋

(57)【要約】

【目的】 密封が確実に行われているかどうかを外部から一目瞭然に視認できる広口容器の蓋を提供する。

【構成】 広口容器口部のリップに接合する短筒状の静 脂製外蓋の天板の背面に、薄板状の金属製又は樹脂製 内容物を密封するシール蓋 一体的に設け、設計型 に内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出 変位する圧力確認部を設け、外蓋には外側から該圧力施 窓部を担限できる圧力根部を設けたことを特徴とする 広口容器の蓋である。圧力視認部から圧力確認部の状態 を見ることで、密封性が完全であるかどうか一目瞭然に 確認できる。



1	5	2	外蓋	3	シール番	4	天板
5	×	6	奶込	7	技术分部	9	開發
14	类集	15	357	16	シール部	17	田力雅認和
20	広口容器	21	リップ				

【特許請求の範囲】

【請求項1】 広口容器口部のリップに嵌合する短筒状の樹脂製外蓋の天板の育面に、海板状の金属製又は樹脂 峻で内容物を密封するシール差を一体的に設け、該シー ル蓋に内圧と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に 突出変位する圧力確認部を設け、外蓋には外側から該圧 力確認部を視認できる圧力視認部を設けたことを特徴と する広口容認の差

【請求項2】 外蓋に、摘まみ部と、該摘まみ部から連 総し、破断線で衝撃から切り離し可能な切断部とを設 け、該摘まみ部を引いで切断部を切り離して開蓋する請 求項1の広口容器の蓋

【請求項3】 シール蓋を薄板円盤状のアルミニウム製 とし、圧力権認部をシール蓋の上側又は下側に皿状に突 出させたものとし、圧力視認部を摘まみ部の中央の穴と した請求項2の広口容器の蓋

【請求項4】 シール蓋を薄板円盤状の樹脂製とし、圧 力確認能をシール蓋の上側又は下側に皿状に突出させた ものとし、圧力視認能を摘まみ部の中央の穴とした請求 項2の広口容器の善

【発明の詳細な説明】

[0001]

【産業上の利用分野】本発明は、日本酒等の飲料のコップ状の容器、いわゆる、ワンカップ客器に用いて好適な もので、内容物を硬めた状態で包装するいわゆるホット パックを行う広口容器の畫に関するものである。

[0002]

【従来の技術】従来のこの種の広口容器には、薄い板状のアルミニウム製の蓋を容器口部のリップに供合し、蓋 の終に簿まみを設け、開蓋するときは該簿まみを引き、 蓋の周縁節を破壊し、容器口部のリップとの供合を解除 する、いわゆる、リンプルキャップが用いられていた。 リンプルキャップの例は、実開平5-71118号公線 等に示されている。

[0003]

【発明が解決しようとする限制 【従来の、いわゆるリンプルキャンプを代表とするホットパックを行う強は、 鼓先了後に均容物の温度が下がり内圧が変化するために 密封を損じることがあるが、それを外部から視認することはできなかった。本部明は、内圧の変化を利用し、密 対が確実に行われているかどうかを外部から一目瞭然に 視認できる広口容器の歯に関するものである。

[0004]

【課題を解除するための手段】本発明は、広口容器口部 のリップに嵌合する短筒状の樹脂製外蓋の天板の背面 に、再板状の金属製又は樹脂製で内容物を軽射するシー ル蓋を一体的に設け、該シール蓋に内圧と外圧の差で内 概又は外側の圧力の低い方に突出変位する圧力確認部を 設け、外蓋には外側から施圧力確認部を根認できる圧力 根認部を設けたことを特徴とする広口容器多蓋である。

[0005]

【作用】本郷明は、上恋の構成のごとく外蓋とシール盃とでなり、外蓋は近口容器口部に嵌着させて容器にしっかりと固定する作用を、シール蓋は外蓋と一体化されることで容器の内容物を密封する作用を有する。また、シール鑑は内胚と外圧の差で内側又は外側の圧力の低い方に突出変度がる圧力を圧力を開きなられているときない。人間に対してかるくなり、圧力確認部は内側に変位することとなる。もし、密封性が損なわれているときは、内圧外圧にははば等しくなり、圧力確認は外側に変位したままとなる。これを外蓋の圧力視認に外側に変位したままとなる。これを外蓋の圧力視認に外側に変位したままとなる。これを外蓋の圧力視認がよ外側に変位したままとなる。これを外蓋の圧力視認がよりで認めて視認する。

[0006]

【実施例】以下実施例を表した図面を参照しつつ本発明 を詳細に説明する。図1は実施例の広口容器の蓋1の容 器への装着状態の略所面図である。 同図においては左半 分及び容器の下側を省略して表している。図2は外蓋2 の上面図、図3は外蓋2の側面図である。

【0007】 蓋1は、ガラス製のコップ状の広口包装容 器に装着するもので、樹脂製で短筒形状をなす外蓋2と アルミニウム製のシール蓄3とからなる。外蓋2の天板 4には、図2に示すように、中央の穴5とその周囲の切 込6により摘まみ部7が形成され、この摘まみ部7は脆 弱なブリッジ8を切断して簡単に引き起こせるようにな っている。穴5は、外部から圧力確認部17を視認する ための圧力視認部でもある。切込6は、図3に示すよう に、筒壁9に至り、その先が内面をV字溝10とした切 断線11に続いている。その下端は、切断をより容易に するための切欠12となっている。2本の切断線の間が 摘まみ部7から連結し摘まみ部7と共に外蓋2から切り 雌される切断部13となってる。なお、本実施例よりも 切込6を短くし、その分切断線11を長くして切断線を 天板4にも形成できることはもちろんである。図1に示 すように、外蓋2の筒壁の下端には内側に膨出する突条 14が形成され、広口容器20のリップ21と嵌合す る。また、外蓋2の天板4上面には、広口容器20の底 部形状に対応した窪み15が形成され、積み重ね可能と なっている。

【0008】シール蓋3は、略円盤炊をなし、図1に示すように、その背面のびん口部と接触する部分に環状にコンパウンド(ライニング)でシール部10 が設けられており、外蓋20天板40背面、突条1401個に、機体的に嵌着され、一体化されている。外蓋とシール蓋を一体にするには、機械的に嵌着する他に、十か成形したシール蓋を外蓋の電型に取り付け、この状態で外蓋を放下がきる方法等、種々の公知方法を用いることができる。シール蓋30中央部は上側以は下側に買いに突出する圧

力確認部17となっている。

【0009】 蓋1は、関1に示すごとく、圧力確認部1 7が上側に突出した状態で容器20に上かから機械的に 装着される。突条14とリップ21は機関に嵌合し、し っかりと固定される。シール部16は容器の印部に押圧されて、内容物を密封する。やがて内容物の温度が下がる と、内圧が外圧より小さくなり、圧力確認部17は、図 1に破線で示すように、内側に変位する。参封性が損な われている場合は内圧と外圧がほぼ等しくなっているか 6、圧力確認第17は外間に突出したままとなってい。 6、したがって、圧力根認能である次から圧力確認部1 7の状態を見て、密封性が完全であるかどうかを確認す ることができる。

き起こし、更に引いて摘まみ部7及びこれに連結してい

る切断部13を外蓋2から切り離す。これにより外蓋の 筒壁が開放され、リップ21と突条14の嵌合を簡単に 解除でき、蓋1を容器20から取り外すことができる。 アルミニウム製のシール蓋3は切断されず、また、外蓋 の内側に一体的にあるから、人を傷つける危険はない。 【0011】図4は他の実施例の蓋30の平面図であ る。 蓄30の外蓋31の天板32には穴34及び切込3 5により簡まみ部33が形成されている。穴34は、や はり、外部から圧力確認部を視認するための圧力視認部 となっている。このように、摘まみ部及び圧力確認部は 蓋の中央付近に設けるのみならず、種々の位置に種々の 大きさで、また、種々の形状で設けることができる。 【0012】図5は他の実施例の蓋40の容器への装着 状態の略断面図である。本実施例はシール蓋を樹脂製と する例である。蓋40のシール蓋41は略円盤状の樹脂 製で、その背面のびん口部と接触する部分に環状にコン パウンド (ライニング) でシール部42が設けられてい

[0013]

圧力確認部43となっている。

【発明の効果】本発明広口容器の蓋は、内圧の変化を利用し、密封が確実に行われているかどうかを外部から一 目眩然に視認できる。また、構造も簡単で、安価容易に

る。シール蓋41の中央部は周囲よりも肉薄となってお

り、上側又は下側の圧力の小さいほうに皿状に突出する

製造できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】実施例の広口容器の蓋1の容器への装着状態の 略断面図である。

【図2】外蓋2の上面図である。

【図3】外蓋2の側面図である。

【図4】実施例の蓋30の平面図である。

【図5】実施例の蓋40の容器への装着状態の略断面図である。

【符号の説明】

1 巻

2 外蓋

3 シール蓋

4 天板

5 次

6 切込 7 摘まみ部

8 ブリッジ

9 筒壁

10 V字溝

11 切断線

12 切欠

13 切断部

14 突条 15 窪み

16 シール部

17 圧力確認部

I / /II/JYEBURI

20 広口容器 21 リップ

30 蓋

31 外蓋

31 外盘

32 天板 33 摘まみ部

34 次

35 切込

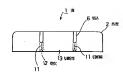
40 蓄

41 シール圏

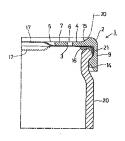
42 シール部

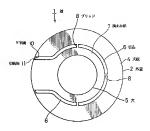
43 圧力確認部

[図3]



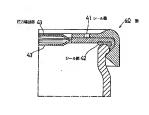
【図1】 [図2]







【図4】



【図5】

